

# 新潟市スポーツ施設の未来構想に関する提言書（概要版）

資料 3 - 1

## 「県都・政令市にふさわしい」スポーツ施設についての提言

<提言>

白山エリアをはじめとする「にいがた2 km」周辺の「街なかエリア」では「スポーツによるまちづくりと地域活性化」、「鳥屋野潟北部および南部エリア」では「スポーツの活性化・余暇の充実」を実現する方向性が望ましい。

○概ね 20 年後に向けて、「県都・政令市にふさわしい」スポーツ施設の定義

- 国際・全国大会を開催できるなど高い機能を有する。
- イベントでも活用され、まちに賑わいが生まれ拠点化・活性化に寄与。
- 防災拠点としての機能を有する。

<議論の過程>

○同類施設の整理から見た未来の施設配置について

### ◆「街なかエリア」

「観るスポーツ」の臨場感ある「球技専用スタジアム」や「アリーナ」を配置。（プロスポーツ・コンサート & 公共施設や商業施設・賃貸オフィス としての機能を併せ持つ）

⇒ 複合的な機能を併せ持つ施設を配置することで、民間の活力を引き出し、賑わいのあるまちづくりによる地域の活性化を図るべきではないか。

### ◆「鳥屋野潟北部エリアおよび南部エリア」

北部エリアに新潟市陸上競技場の代替として陸上トレーニングを行う施設を配置し、鳥屋野運動公園の機能（野球場・球技場）やアリーナ（※）については、南部エリアに集約。

※アリーナは「街なかエリア」を想定しているが、「鳥屋野潟エリア」という意見もあったことで再掲。

⇒ 降雪地という地域性を考慮した全天候型のトレーニング特化型施設の配置による新潟にしかない特色づくりや、既存の県スポーツ施設や商業施設との関わりが生まれ、花と緑やスポーツへの親しみ方がより充実し「スポーツの活性化・余暇の充実」を図るべきではないか。

○未来の施設が持つべき機能

### ◆防災拠点（能登半島地震への対応から特に強調したいこと）

- ・避難所や人員物資の集積地としての機能
- ・被災者のための大規模相談会場や傷んだ学校体育館の代替施設

⇒ 災害時に果たす役割は非常に大きく、スポーツ施設の新設や大規模改修を行う際には、防災拠点としての機能を備える検討が必要ではないか。

## 喫緊の課題である老朽化への対応についての提言

<提言>

大規模地震が発生した際に倒壊又は崩壊する危険性が高く、老朽化への対応が特に喫緊の課題となっている鳥屋野運動公園野球場は、鳥屋野潟南部エリアに移転して新築する方向性が望ましい。

<議論の過程>

○現状と課題からみえた新球場

- ・老朽化への対応を講ずることは喫緊の課題という認識のもと、鳥屋野野球場の機能が市内中心部には引き続き必要。

⇒ 現有地において鳥屋野野球場が抱える、狭あいなどの現状や課題をふまえると、現有地での建替え、改修よりも、鳥屋野潟南部エリアに移転する方が望ましいのではないか。

○令和 6 年能登半島地震による影響

- ・新球場は鳥屋野潟南部エリアに移転する方向性を維持しながら、地震によって現球場を使用できなくなったことをふまえ、移転に向けた計画を策定することを望む。